

佐藤昭裕は雇用責任を果たせ!



京都大学の非常勤職員で作る労働組合、ユニオンエクスタシーの組合員である小川さん・井上さんは、上司のパワハラにより雇い止め解雇されました。組合はこの不当解雇に抗議し、文学研究科に対して、二人の復職を求める交渉をねばり強く続けてきました。

二人は文学部図書館で、書誌データベースを構築するための5年間のプロジェクトに携わってきました。ところが、仕事は残っているにも関わらず、「プロジェクトが終了したから」という不可解な理由により、3年で雇用を打ち切られたのです。

当時の上司であったT掛長は、パワハラの常習犯でした。二人以外にも、日常的な暴言を受けたり、不当に辞めさせられていった被害者は何人もいます。二人が解雇されたのも、恣意的な嫌がらせによるものでした。

去る8月26日の団交の席上、赤松明彦・前研究科長は、T掛長によるパワハラがあった事実を大筋で認め、「早急に調査委員会を設置して調査しなければならない」「ついでには人権委員会に申し立てをしてほしい」とおっしゃって下さいました。復職の前提として、まずはハラスメントの事実をきちんと調査する必要があるということです。

ところがこの10月、新たに就任した佐藤昭裕・研究科長は、なんとこれまでの確約を一方向的に破棄し、「裁判が続いているあいだは調査を行わない」と言い出したのです。

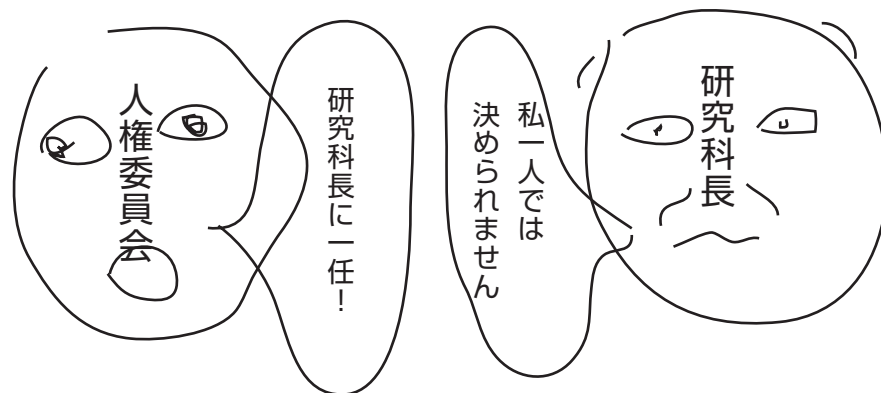
佐藤氏は、パワハラ申し立てを放置することによって、被害者の人権救済こそを第一の目的とせず、人権委員会を有名無実化しようとしています。二人の復職のために労を取るところか、苦しい失業生活を強いられている二人の人権を、さらに踏みこむというのです。これが「人権侵害」でなくて何でしょうか!

私たちは、佐藤氏の不誠実きわまりない、交渉態度に抗議します。雇用主としての自覚もなく、責任を放棄し、頼かむりして逃げ回るばかりの醜態に対し、ここにはげしい怒りを表明します。

佐藤研究科長、どうかご自身の雇用責任を果たして下さい!

**京都大学時間雇用職員組合
ユニオンエクスタシー**
<http://extasy07.exblog.jp>

へタレ研究科長!



8/26 団交での文学部当局の発言 (抜粋)

■赤松明彦 (前学部長) ああ、で、結局、何をやるかっていえば、われわれのほうで調査委員会を立ち上げてっていうことですよ。——それはもう研究科長のお考えでいいと思うんですよ。赤松 そうなると思います。

■赤松 私が言えることはだから、そしたら少し内部的に調査委員会を立ち上げてっていうか…。まあ、いくつか。

■赤松 研究科っていう立場がありませんから。やっぱり、それは…だって(事務長と)二人だけで受けておいて、じゃあ状況を変えられるかいうたら変えられないでしょ。状況をちゃんと説明して、ちゃんとした調査委員会というか、そこで報告なりなんか…要するにみんなに分かってもらわないと、っていうことですからね。

■赤松 そうですね。調べるというか、やるべきことはだから…文学研究科としてこれ(パワハラ)を調査して、確認するということですよ。

■中山圭史 (事務長) より良い環境作りということでは、きばらなあかんから、それはきばってやります。だから、何らかのしこりが残っているようなもんがあるんやったら、それはどうしようかいうことは、別に事務長であれ掛長であれ掛員であれ、みな同じ気持ちがあるなら、へんな気持ちを持ってんのやったら、それはきっちり表に出してみんなでどうしていかうかと、そういう環境は作らな、いかんから。

■中山 パワハラとかいうようなことやるとしたら、それこそ研究科長いわはったように、正式にそれなりに文学研究科として調査委員会というものをセットした上で、誰に聞くか…きっちりやらな、あかんからな。

■中山 こんなんすぐには答え、出えへんよ。(人権委員会へ)申し立てたさかいに、すぐ回答もらえるようなもんじゃないからね。ただ、放つたらかすわけには、私は…しません。それはしませんよ。

↑この確約を誠実に守り、
人権委員会による調査を
いまずぐ開始して下さい!